

2025/11/16 「十二弟子の新体制」 使徒1:21-26

詩編77:5-15 さ390 セ433 (435)

紅葉の色づく季節になりました。80周年のためのミニバザーと、久しぶりの愛さん会が礼拝後に開かれるのが楽しみです。この年の締めくくりと、新しい年への期待を胸に、神様に整えられる1週間とさせていただきます。

教会は間違いを犯す

イエス様の昇天後、最初に弟子たちがしたことが、今朝の新体制づくりでした。そのために、彼らは熱心に祈っていたと記されています。裏切り者ユダが、作ってしまった穴を、塞ぐ役割ですから、きっと色々な考えや意見が吹き出したことでしょう。満場一致はならず、やむなく「くじ」という方法を取りました。しかし、これで良かったのでしょうか。

残念ながら、教会の歴史は、軌道修正の連続です。伝道の弊害になるような、十字軍、地動説擁護、植民地政策、近年の排他主義など、きりがありません。それは各個教会においても、一人一人の信仰生活においても同じです。「前例がある」というと、つい納得してしまいますが、時間はかかっても、検証しなければならないこともあるのです。

くじは、300年後のグラチアヌス帝の時代に、禁止されました。現代の教皇選挙に、時間がかかるようになったのはご存知の通りです。マティアについては、聖書はその後沈黙しますが、一説では、途中で働きから離れてしまったのではないかとされています。

栄光なき英雄たち

実は、今朝心に留めたい人物は、マティアではなく、もう一人の選考から漏れたヨセフのほうなのです。クリスマスのヨセフ、イースターのアリマタヤのヨセフに並ぶ、ペンテコステのバルサバ・ヨセフです！彼の横顔は、栄光なき英雄たちの列に並んでいることを思うのです。彼は教会の指導者ユダ（15:22）の兄弟と言われ、すでにこの時も、従順に使徒たちに支えていた人物だったと考えられます。多くの人が祈りの答えがこのバルサバ（安息日の子）であるようにと切願したことが想像できます。しかし、彼はくじに外れました。

しかし、彼はそんなことには関係なく、その後も忠実に働き、一説では殉教したとのこと。3人のヨセフは、それぞれの最も目立たないパートを受け持っていますが、誰よりも主の御心を理解し、その生涯を主に捧げたのです。

教会の始まりにおいて、すでに軌道修正が必要な事柄が混じっていたということは、私たちへの警告です。祈ったから大丈夫、という単純なものではありません。常に私たちは謙虚にその歩みを検証しなければなりません。しかし同時に、バルサバ・ヨセフは私たちへの慰めと模範を示しています。彼のように生きるとき、安息日の子として、栄光を受けるのです。